

## 地域コミュニティ活性化に関する懇話会 各部会の主な内容

## 第 1 回

- 1 活性化方策部会（5月29日 午後7時～午後9時 職員会館かもがわ）
  - (1) 地域コミュニティ活性化に取り組んでいる事例（本能学区等のまちづくり委員会の取組，他都市の支援策）について報告
  - (2) 意見交換
    - ア 大学生の地域への参加の促進
      - ・住んでいる地域へ参加している大学生は少ない
      - ・地域と大学生をつなぐ「つなぎ手」が必要
    - イ 地域課題の解決に向け，やる気のある人材を発掘し，有志で連合体を組織し，自治連合会等とのつながり方を考える
      - ・積極的に地域と関わりたい人ばかりではないので，地域を運営するのはコアメンバーになるが，いかに地域住民を巻き込もうとするかが大切
    - ウ P T A と地域組織との関係
      - ・P T A は地域活動の入口だが，子どもが学校を卒業すれば地域との関わりがなくなっている。P T A 活動終了後も地域に関われる仕組みづくりが必要
    - エ 京都市の地域への支援策の整理
      - ・まちづくり委員会，人づくり21世紀委員会，学校運営協議会等，目的別に連携している組織の情報等の整理
      - ・スクールガードリーダー，生涯学習コーディネーター等，地域にアドバイス等を行っている人材の情報整理
      - ・まちづくりアドバイザーが地域と関わっている情報の収集が必要
    - オ 活動拠点の必要性
      - ・いつでも使用が可能で，地域住民同士が顔を合わせられる地域拠点が必要
- 2 行政組織部会（6月1日 午後7時～午後9時 職員会館かもがわ）
  - (1) 東山区のこれまでの取組事例の報告（交通対策，3K協力金等）
    - ・区の課題に応じて，既存の各種団体の長だけでなく，核となる地域のリーダーを発掘し，将来像を共有し，プロジェクトチームを結成し，まず小さな地域単位で実行し，成功したら広げていく，という手法をとっていた
    - ・組織の強化策を実施した（関係機関との連携体制，大区役所制を活用した区内での応援体制の構築等）
    - ・地域の人が「自分が主役」と思えるような進め方が重要
  - (2) 意見交換
    - ・長期にわたり地域と関わる職員が必要。短いと区の方向性が見い出せない
    - ・地域の課題に対し，一人の人が責任をもって地域の面倒を見られるシステムの構築が必要
    - ・新しい人材を見つけるには，何か取組をする時，地域に対してできるだけ広い範囲で多くの人に声かけするべき

3 地域組織部会（6月2日 午後3時～午後5時 市役所本庁舎G会議室）

- (1) 地域住民が主体となり，行政と協働でコミュニティづくりに取り組んでいる他都市（福岡市，北九州市，宝塚市）の地域組織の事例について報告
- (2) 意見交換
  - ・マンション住民に自治会に加入してもらうには高齢者と子どもが突破口になると感じている
  - ・京都市が行っている事務事業の中で，地域に任せることは任せていくことにより住民に主体性が出てくる。そのためには行革がセットで行われなければ難しい
  - ・縦割りの地域組織ではなく，いろいろな人材の居場所があるようなゆるやかな組織で，魅力的，面白いことを実施してどんどん人材を引き込む努力をすれば，地域組織が再生していけるのではないか
  - ・多様な人々が参画できるような組織イメージのモデルを提起していきたい。また，そのモデルについて，行政からの押し付けではなく，地域組織が受け入れられるような工夫についても，今後，議論していくこととしたい
  - ・やる気のある人に何かの形と立場を与えることが大事

第2回

1 活性化方策部会（6月29日 午後7時～9時 職員会館かもがわ）

- (1) 地域で活動する人材について資料を基に説明
- (2) 意見交換
  - ・地域で活動している団体の活動内容や問合せ先を，活動の対象（例：子どもに関わる団体）ごとにまとめて情報発信できれば，地域内の横の連携が促進される。それを支援するための行政の施策を検討することが必要
  - ・PTA，学校運営協議会など，子どもというテーマで学校を核として活動する人材を，子どもが学校を卒業した後も地域と結びつけていく仕組みをつくる必要がある
  - ・地域団体相互をコーディネートできるのは，京都市ではまちづくり推進課しかないと思う。その機能を果たすためには，地域側，行政側の情報をまちづくり推進課に集める必要がある

2 地域組織部会（7月2日 午後7時～9時 職員会館かもがわ）

- (1) 京都市（城巽，梅津），福岡市，北九州市の地域組織の概要及び地域支援担当課の概要について資料を基に説明。
- (2) 意見交換
  - ・まちづくり委員会は，自治連合会の組織として位置付けられながら，目的に応じて自由に活動できる組織である。地縁組織の中の志縁組織というのが強みである
  - ・やる気のある人達をいかに地域につなぎとめるかが大事
  - ・同じ名前の各種団体がどの学区にもあるが，北九州市のように学区内に部会を設置する考え方もあるのではないか

3 行政組織部会（7月3日 午前10時～12時 市役所本庁舎E会議室）

(1) 京都市，福岡市，北九州市の地域支援担当課の概要及び地域組織の概要について資料を基に説明。

(2) 意見交換

- ・まちづくり推進課の業務量の多さと体制の弱さが問題
- ・現在のまちづくり推進課の業務を継続しつつ，地域の活動支援を強化するのであれば，別のセクションが地域の活動支援を行う形がいいのでは
- ・地域に係る情報を集約する機能を担うセクションが必要
- ・まちづくり推進課は行政ならではのコーディネート機能を担うべきである
- ・まちづくり推進課が地域に入っていく，時間をかけて地域課題の解決に向けた取組を行うためには，市として方向転換することが必要